

通水部の変化の影響

■ 潟湖内のイシガレイ

蒲生干潟は現在堤防工事が進んでいる。レポート165号で取り上げたが、導流堤の通水部にパイプが設置され、水の出入りがスムーズになっている。そのため潟湖と七北田川の間での生物の出入りが容易になったと思われ、今月も潟湖内でイシガレイを採集することができた。なお、これまでの調査で潟湖のイシガレイ稚魚は河口域の個体より大きい傾向が認められたが、今回の調査ではそのような傾向は認められなかった(Table.1)。

全長(cm)	2.0cm	2.5cm	3.0cm	3.5cm	4.0cm	4.5cm	5.0cm	5.5cm	6.0cm	計	平均全長
個体数(匹) (河口域)	0	2	4	7	8	1	2	1	1	26	3.8cm
個体数(匹) (潟湖内)	1	0	1	2	0	1	0	0	0	5	3.3cm

(Table.1 イシガレイの全長と個体数)



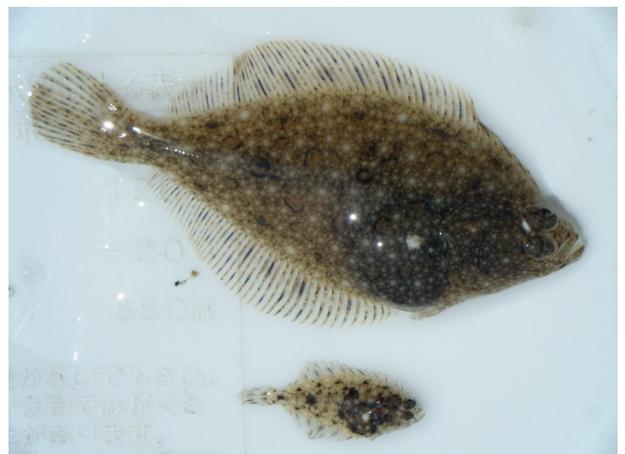
(Fig.1 河口域で採集したイシガレイ)

■ ボラの稚魚

潟湖内と七北田川の間での生物の出入りがスムーズになったため、潟湖内ではボラの稚魚が多数観察された(Fig.3)。「海のゆりかご」としての干潟の機能がよい方に向かっているとされる。



(Fig.3 潟湖内で採集したボラの稚魚)



(Fig.2 河口域で採集した最大・最小の個体)

(佐藤 賢治)